

II コースアドバイザーの養成における成果

1 全体的な成果

(1) 支援分野の性質の違いに応じた養成講習会

モデル事業開始当初は、養成講習会において実施される講座は一律的に提供されるケースが多かったが、今年度においては、受講者の知識レベルや専門としている分野等に応じたカスタマイズがなされる等、発展型の講習会が実施されている。

【各地域における事例】

若狭町では開催回によって目的を定め、内容に応じた対象者をその都度召集した。予防・普及啓発を目的とした回では、民生委員を対象として、子ども・若者の現状や連携した支援の重要性を確認する講義を行った。保護者を対象として「ネットいじめ」、「不登校・就職拒否とひきこもり」といったテーマの講習会を開催した。また、支援の実務者向けには、先行した取組を行っている支援団体の取り組内容や相談業務、訪問支援の在り方、アセスメントと支援計画等について、専門知識を掘り下げるための講座とした。(若狭町)

(2) 発展段階に応じた養成講習会の実施

昨年度から継続して事業を実施している地域では、実践的な内容を中心とした講座を実施して実際の支援に必要なスキルの向上を図った。

【各地域における事例】

新潟市ではコースアドバイザー修了者を若者支援センター「オール」の居場所において、若者の見守り、話し相手の職員として配置している。講習会では居場所の運営に直接役立つ知識を得るため、居場所における若者とのコミュニケーションの仕方について学ぶ機会を多く設けた。各地で若者を対象とした活動を展開するNPOから講師を招き、ロールプレイ等を交えた具体的な手法や、その背景にある考え方について講義を受けた。(新潟市)

(3) 受講者同士の相互理解を図る取組の拡大

今年度は、養成講習会の受講者同士が顔見知りになるだけでなく、どのような問題意識を持っているのか、どのような分野での支援を展開しているのか、どのような方法で支援しているのか等の掘り下げた情報を共有することに取り組む自治体が増えている。

【各地域における事例】

石狩市、勝央町、大田市、石垣市では、第1回や第2回といった養成講習会の早い段階においてワールドカフェを実施し、支援者同士の想いや各機関の支援方法等について紹介し合った。ワールドカフェによる意見交換は、顔の見える関係作りに

とどまらず、自身の専門分野以外の課題を現実のことと実感し、今後協議会を設立して問題に対処していく必要を認識する良い機会となった。(石狩市、勝央町、大田市、石垣市)

2 養成講習会に関する成果

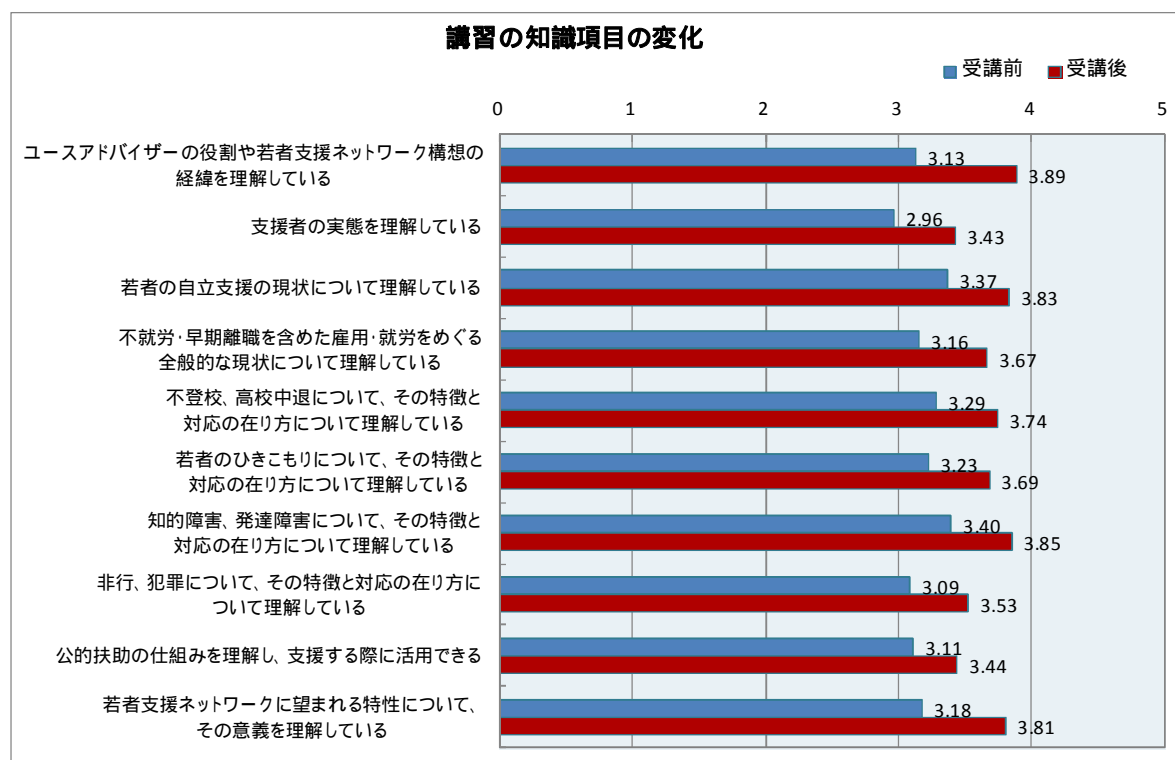
(1) 知識・スキルに関する自己評価

各実施地域で、養成講習会を実施し、一定の条件を満たした者に対して修了証を付与した。また、養成講習会の効果を図るため、各地域の養成講習会の受講生に対して、『初回』と『最終回』に養成講習会で取り扱う知識・スキルに関する自己能力評価を実施した。自己能力評価に加えて、最終回には養成講習会の内容に関するアンケートを実施し、受講者の講習会に対する満足度等について調査した。以下は、自己能力評価と講習会の満足度アンケートの結果である。

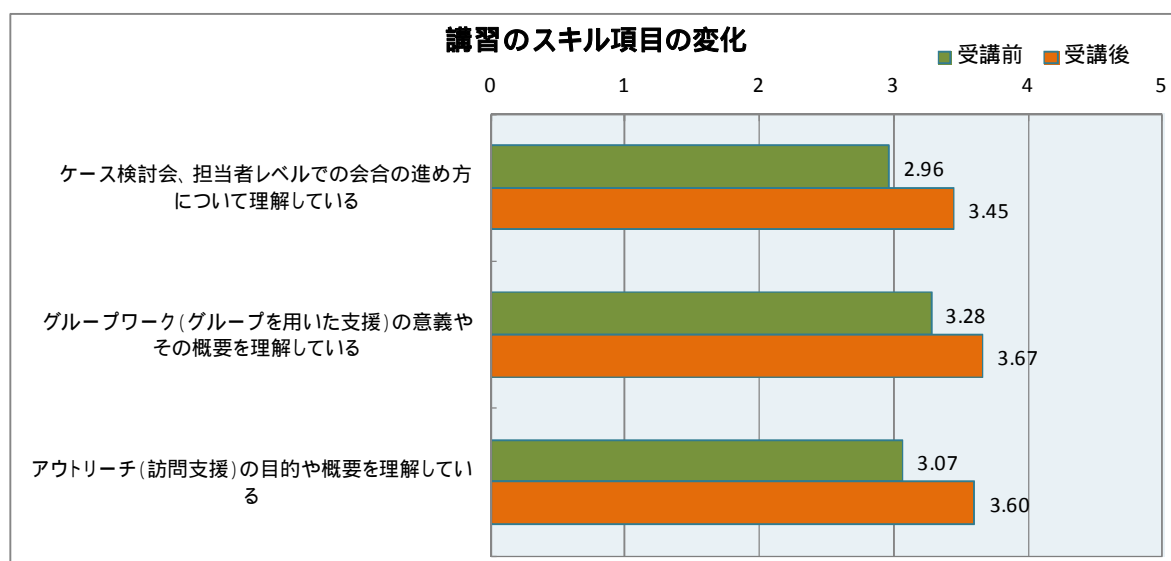
(2) 知識・スキルに関する自己評価

自己評価シートのうち、「知識項目」における受講生の事前評価平均が 3.19、事後評価平均が 3.69 であった。また、「スキル項目」における受講生の事前評価平均が 3.10、事後評価平均が 3.57 であった。事前評価と事後評価を比較すると知識項目が 0.50、スキル項目が 0.47 上昇している。

図表 39 調査結果：自己評価（知識項目）の変化



図表 40 調査結果：自己評価（スキル項目）の変化



(3) 養成講習会についてのアンケート結果

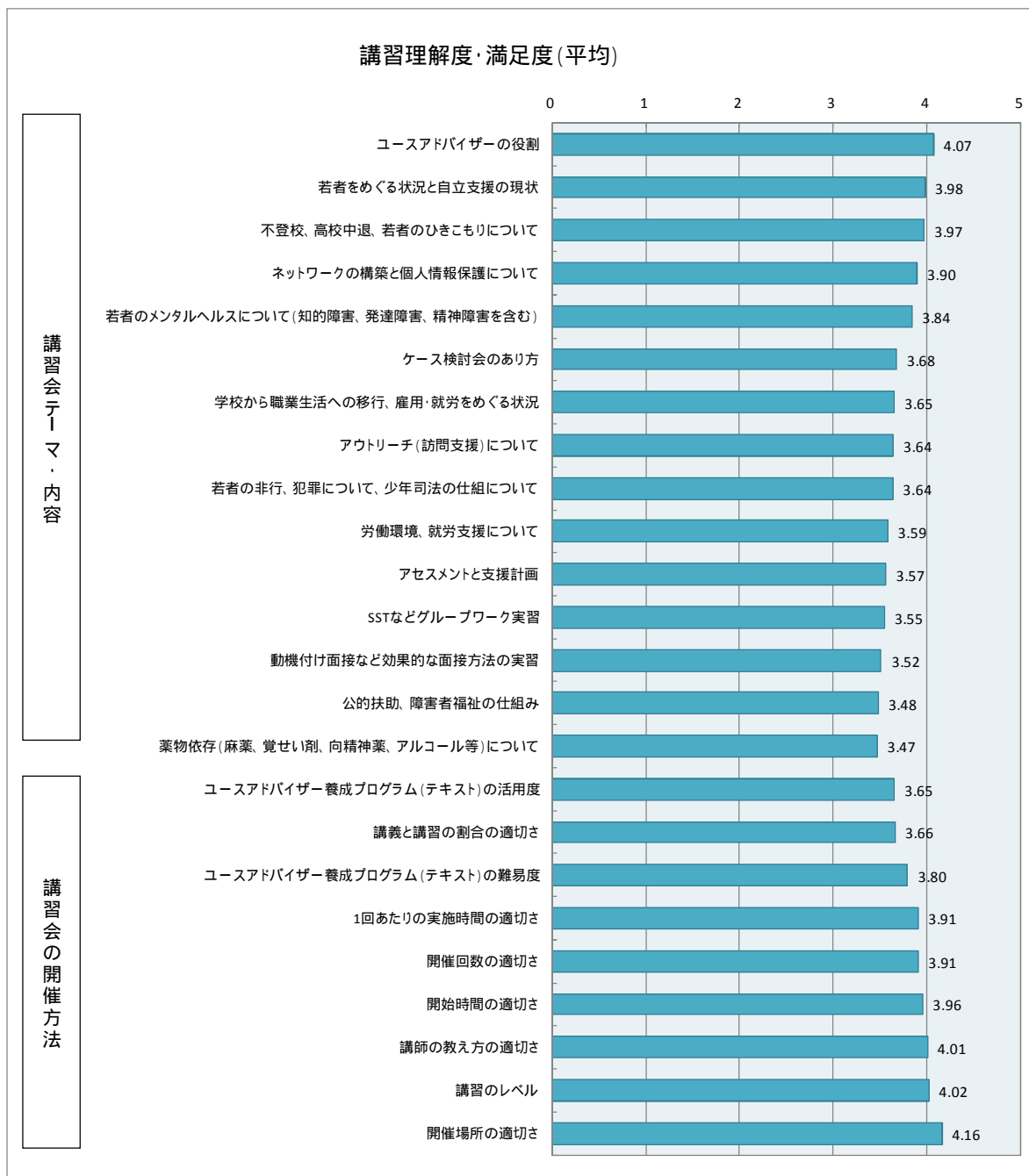
各実施地域における最終回の養成講習会にて、受講者に対して、a) 講習理解度・満足度に関する項目（養成講習会での研修テーマ・内容、研修の実施方法について）、b) 来年度の養成講習会の受講希望、c) 来年度以降掘り下げべきテーマについての5段階評価のアンケートを実施した。

講習理解度・満足度に関する項目：養成講習会のテーマ、内容についての満足度は5段階評価のうち、平均は3.70であった。また、研修の実施方法についての満足度は3.90であった。

特に満足度の高い上位3項目は、「ユースアドバイザーの役割」(4.07)、「若者をめぐる状況と自立支援の現状」(3.98)、「不登校、高校中退、若者のひきこもりについて」(3.97)であった。

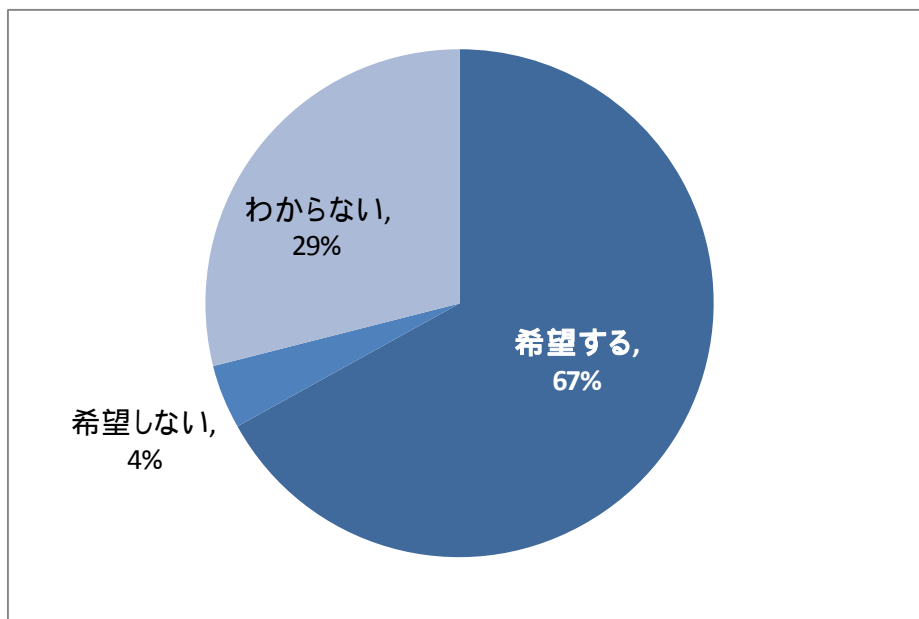
研修の実施方法については、「ユースアドバイザー養成プログラム(テキスト)の活用度」(3.65)、「講義と講習の割合の適切さ」(3.66)、「ユースアドバイザー養成プログラム(テキスト)の難易度」(3.80)がやや低い水準である。

図表 41 アンケート結果：講習会の理解度・満足度



来年度の養成講習会の受講希望：今年度の受講生のうち、来年度以降同種プログラムの受講を「希望する参加者」は 67%、「受講を希望しない参加者は」4%、「希望するかわからないと答えた参加者」は 29%であった。

図表 42 調査結果：来年度の受講希望（平成 24 年度結果）



来年度以降、掘り下げるべきテーマについて上位5項目は、「若者のメンタルヘルスについて(知的障害、発達障害、精神障害を含む)」(118)、「不登校、高校中退について、若者のひきこもりについて」(116)、「ユースアドバイザーの役割」(90)、「就労支援について」(79)、「ケース検討会のあり方」(78)であった。

図表 43 調査結果：来年度以降、掘り下げるべきテーマ

